

編集:北海道民主医療機関連合会

001-0014
札幌市北区北14条西3丁目1-12
TEL 011-758-5344
FAX 011-746-5449
E-mail igakusei@dominiren.gr.jp

発行 I仔・ム・メ 加協同組合

Dream 71

北海道民主医療機関連合会
ゆめ・どりーむ vol. 71

夢 Dream は医師を目指す皆さんに役立つ情報を発信しています

医師・医学部を 目指すあなたへ

Produced by Hokkaido MIN-IREN

医学生×医師

Special対談



医師・医学部を目指すあなたへ

医学生生活で楽しみにしていることはありますか？不安なことはありませんか？

北海道民医連の奨学生生活では、医師になる上で大切なことを学ぶことができます。全道各地でフィールドワークを行ったり、全国の医学生と共に学んだり…みんなで楽しく充実した医学生生活を送りませんか？

今回は、道内三医育大学の医学生と医師が、学生生活について本音で語り合います。

学生生活

熊田 今日はよろしくお願います。早速だけど、学生生活で一番楽しいことってなに？

仲谷 北海道大学（以下、北大）は色々な学部の人に出会えるのが楽しいです。

熊田 北大は総合大学だから人数多いもんね。磯川さんはどう？

磯川 部活と遊びですかね。熊田 なんかことするの？

磯川 よく部活の仲間や友達とすすきのに行っています。札幌医科大学（以下、札幌）からとも近いんですよ。あと、大学の規模が小さいので、友達の友達と仲が良くなれます。

熊田 人の輪の繋がりがあってだね。鈴木さんはどう？

鈴木 部活の仲間と遊びに行くのが一番楽しいですね。先輩に車で富良野や美瑛に連れて行ってもらったりしています。

熊田 本当に三者三様だね。みんな人との繋がりの中で楽しさを感じているんだね。想像していた学生生活と違うことはあった？

鈴木 私は旭川医科大学（以下、旭医）に入る前から、留年が珍しくないことを聞いていたので、「遊べないのかな？」って思っていたんです。でも、意外と遊べて驚いています。

仲谷 北大の一年生は教養中心の授業で、自分の好きなことを色々学べると思っていたんです。でも、縛りが厳しくて、興味が

ないことを学ぶのは少しキツイです。でも、その分色々な学部の人と知り合えるのは楽しいです。

熊田 実はね、医者になってからの方がもっと勉強するよ。医

者になってからこんな試験が多いとは知らなかった。

鈴木 今は訓練なんですね。磯川 勉強は大事ですよ。三年生になって改めて医学の基礎の大事さを知りました。基礎が分かれると、臨床がどんどん楽しくなってきました。

熊田 その面白さは医者になってからずっと続くと思うよ。とても大事なことだね。

民医連との出会い

熊田 民医連の奨学生になったきっかけは？

仲谷 高校生の時、訪問診療に同行してとても感激したのを覚えてます。大学合格後、病院見学をした時に、奨学生生活の説明を受けて決めました。

磯川 私は母が紹介してくれました。職員の方からお話しされた民医連の理念や考え方がすごくいいなあって思って決めました。

鈴木 私は姉が奨学生で、病院実習が一年生から出来ること、学習会も月一回あることを聞いていました。入学当初は医療に関することを学ばないので、モチベーションが下がってくるんですよね。でも、L1D0B A

(※1)の活動に参加した時、将来どのような医師になりたいか真剣に考えている先輩をみて

今号のラインナップ

① スペシャル対談 「医学生×医師」

② 魅力的な奨学生生活活動

③ 北海道民医連のご紹介



熊田 肇 (くまた はじめ)
後期研修医(道北勤医協一条通病院)
「コーヒーと甘いものが大好き」

いて、自分が将来医師になる自覚を忘れないようにさせてくれる存在だと感じて、奨学生になりました。

奨学生生活動①

熊田 札幌の奨学生生活動はどんなことをしているの？

仲谷 札幌は月に一回ランチミーティングと医学生ミーティング(※2)で学習しています。

熊田 どんなテーマなの？

仲谷 今年は貧困やホームレスについて学んでいます。ディスカッションを大事にしていますね。

熊田 北大と札幌はそれぞれで活動しているの？

磯川 医学生ミーティングは合間で、ランチミーティングはそれぞれでしていますね。

熊田 旭医はどんなことしているの？

鈴木 医徒場楽☆ミーティング(※3)をしています。まず、奨学生で学びたいことを話し合っ

て、医師や弁護士など様々な方に講師をお願いしています。最近には漢方や、整形の応急処置・ケガの手当てを勉強しました。奨学生は運動部も多いので、いざという時に役立ちます。

熊田 出来るだけ身近なところからテーマを決めていくようにしているんだね。奨学生生活動をしていてよかったことは？

磯川 地域医療や貧困といった社会の実情を学べることでですね。実際に地域医療をしている先生方からお話しをしてもらうのはすごく勉強になります。札幌は実習が三年生までないので、とてもためになったと思います。

仲谷 私も今年の夏は病院や診療所でたくさん実習して、とても楽しかったです。

熊田 それはいい経験をしたね。印象に残っている場所はある？

仲谷 余市町の診療所です。

熊田 僕も行ったことある。どうだった？

仲谷 診療所ってすごくいいなと思います。看護師さんや技師さん含めて、家族みたいで。本場に地域と近くて、患者さんと街で会ったら挨拶をするという話を聞いて、診療所も素敵だなってすごく思いました。

熊田 良い町だよ。当時の町長さんも素敵で、僕もこの町で働きたいと思ったよ。僕たち医療者と一緒に医療を作ろうと考えていて、「医療を自分たちで作っていくんだ」って仰っていたのが印象に残ってるね。



磯川 真里奈 (いそかわ まりな)
札幌医科大学 三年
「バスケットとアルバイトに夢中」

奨学生生活動②

熊田 困っていることはある？

磯川 私は部活やバイトが忙しくて、でも、企画も色々あるの

で、都合に合わせて、なるべく参加するようにしています。

鈴木 私もです。北海道以外でも企画がたくさんあるんですよ。でも、テスト前で参加できないことも多くて。常に留年のことが頭から離れない状態です。「行きたい」って思っても中々参加できないことが困っています。

熊田 旭医はテストの嵐だもんね。二人は学業に関しては大丈夫？

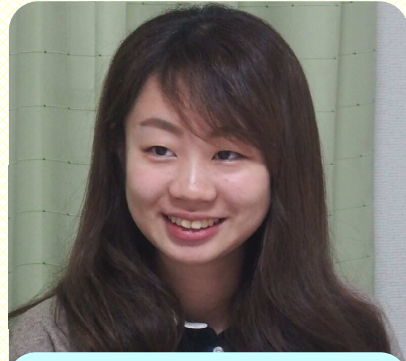
磯川 私の学年からカリキュラムが変わって、授業もびっしりで大変です。

仲谷 私は教養科目だけなので余裕があります。時間割も自分で調整できます。でも来年から毎週テストがあつてしんどそうです。

熊田 自分で時間割を組めるのはうらやましいなあ。

仲谷 先生はどうして民医連の奨学生になったんですか？

熊田 二年生の時に、実習が出来る病院を探していて、民医連が「高校生一日医師体験」をしていたことを思い出したんだ。



仲谷 美憂 (なかや みゆ)
北海道大学 一年
「バスケット部マネ。学校楽しい」

それをきっかけに、奨学生生活動に参加してみたらすごく面白かったんだよね。その時、ある先生に「奨学生として学習会を作るよ。飛び込んで奨学生になったら」と言われて。むしろ学習会を企画したくて…というのが、はじめかな。

磯川 どんな奨学生生活動をしていましたか？

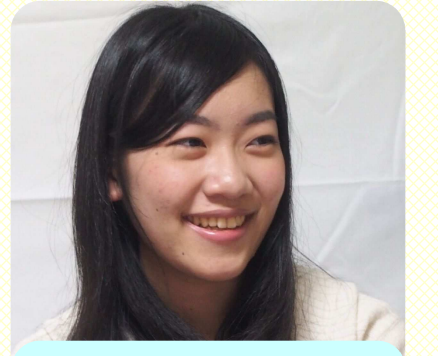
熊田 当時、二人しか奨学生がいなくてね。他の学生を呼ぶために、どうすれば面白くなるのかを考えながら作っていくのは楽しかったよ。「ノロウイルス」の勉強会をしたことがあって、学生が誰も来れなくて聴衆は先生だけという時もあったけどね。

仲谷 たくさん集まった方が楽しいですね。

対談を終えて

熊田 今日の対談で、学生生活を非常に前向きに捉えられているのがわかってよかった。今の学生生活を一生懸命やってもらったら、皆さんいい医者になれると思うよ。会えて良かった。今後がんばってね。

三人 ありがとうございます。



鈴木 織江 (すずき おりえ)
旭川医科大学 一年
「バド部とIFMSAやってます」



- ※1 **IDOBA**
旭医学生のための部屋の愛称。井戸端会議をもちり、親しみをこめて学生が名付けました。
- ※2 **ランチ・医学生ミーティング**
札幌の医学生が集まり、講師を招いて学習したり、自分の活動を発表したりします。活発なディスカッション、終了後の交流会が欠かせません。毎月開催です。
- ※3 **医徒場楽☆ミーティング**
医学生ミーティングの旭川版。医学生が名付けました。医師、生徒が集い楽しむ場、なんでも話せる井戸端会議が由来です。旭川でもランチミーティング、奨学生だけのミーティングもしています。

北海道民医連の魅力的な奨学生活動を紹介します。

北海道民医連の奨学生は、道内はもちろん、北海道を飛び出し、全国の仲間と学んだり、ボランティアなど様々な活動を通して、将来の医師像を深めています。今回はその中から一部ご紹介します。奨学生活動に興味のある方は、最終ページ下部の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。お待ちしております。

① つどい

「つどい」とは、「民医連の医療と研修を考える医学生をつどい」の略称です。全国から医学生が集まり、テーマ（例えば貧困、災害医療など）について語り合い、学ぶための場です。その土地ならではのフィールドワークも。全国にたくさんの仲間が出来ますよ！

全国の医学生と交流！一緒に参加しましょう！

毎年「つどい」に参加しています。それまで、こういった集まりや勉強会に参加した経験がほとんどなく、初対面の人達とうまく話し合えるかという不安を抱え、知識もあまりない状態での参加でした。しかし、知識がないと話に入れないといったものではなく、1年生から6年生の全員で助け合いながら学びを深めていく素晴らしい空間です。

参加して良かった点は、このように温かい雰囲気の中で日本の医療が抱える問題に対して改めて考えることができたということに加え、学びを求める全国の医学生と交流できたことです。初対面でもすぐに打ち解けることができましたし、沢山の医学生と交流できることは本当に貴重な経験です。

以前の「つどい」では、私の地元長野県から九州の大学に、また、九州から信州大学へ行っている学生もいて、長野県の話で盛り上がりました。将来同じ場所で働く仲間になるかもしれない学生との交流は、貴重な時間です。ぜひ、みなさんも参加して一緒に学びを深めましょう。

もし私を見かけたら、ぜひ声をかけて下さいね。

深澤 晶(旭川医科大学3年)



↑東日本大震災慰霊碑を訪れる学生達

これまでの「つどい」のテーマ

「世代別に隠れる貧困」

教育分野支援団体の訪問、路上生活者との懇談

「東日本大震災から5年」(宮城、福島県)

大川小学校跡地、沿岸部仮設住宅視察

などなど



② 奨学生合宿

「奨学生合宿」とは、泊りがけで道内の様々な地域に出かける奨学生の一大イベント！年に一度道内3医育大学の民医連の奨学生、道外の大学に通っている奨学生が集まります。医師像を深めるための多彩なフィールドワーク、観光も！？

奨学生大集合！深めよう医師像とチームワーク！

今年の「北海道民医連奨学生合宿2016」は芦別市で行われました。芦別市はかつて炭鉱で栄えていましたが、その後産業の衰退・人口減少もあり、高齢化率が約43%となった町です。

最初に「星の降る里百年記念館」で芦別の歴史を学び、患者さんのお宅へ訪問しました。足が不自由ながらも1人暮らしされている80代女性のお話を伺う中で、独居生活の危うさを知り、訪問しなければ分からないことがありました。その後、訪問した患者さんについて、みんなで何に困っているのか想像を巡らせつつ議論すると、食事や排せつ、家事全般などの不安が挙げられ、患者さんの生活を支える大変さを痛感し、今後自分が医者として向き合うべき問題だと自覚しました。また、女性のお話の中で、定年まで働き続けた自負や「女は自立をしなければいけない」という価値観がありました。周りから見ると独居生活に不安を感じますが、彼女の価値観やこれまでの生活を尊重しながらサポートすることが重要だと感じました。

最後に芦別平和診療所の堀毛先生に講演を頂き、患者さんの生活に寄り添い、社会に働きかけて人々の健康改善に取り組まれてきた姿に大変感銘を受けました。短い時間でしたが、大変濃密な時間を過ごすことができました。ペンネーム ピリカヌプリスキ ↓みんなでジャンプ！



今回のスケジュール

◆10月22日(土)

10:30 開会式

10:45 星の降る里百年記念館見学

11:30 スタープラザ芦別で昼食

12:45 芦別平和診療所訪問

13:30 往診患者訪問

15:00 講演・グループディスカッション

18:30 交流会

◆10月23日(日)

8:45 ホテル出発

10:15 そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト見学

11:30 閉会

③ KOMSA

KOMSA（九州沖縄医学生をつどい）とは、九州地方の医学生が集まり、様々なテーマを学び、交流する企画です。

塵肺…背景に地域性と過酷な労働環境



鹿児島県霧島市

今年で19回目となるKOMSAは、鹿児島県霧島市で開かれました。内容はフィールドワーク、交流会、救急医療についての講演などでした。

フィールドワークでは塵肺の患者さんにお話を伺いました。塵肺は北海道では石炭産業の職業病として知られていますが、鹿児島ではトンネル工事等に就いていた方々が患っています。霧島地方は火山灰のため稲作に向かず、多くの人が出稼ぎに行く背景がありました。ある人は塵肺のことを知らず、ある人は企業から塵肺のリスクの説明を受けながらも貧しさのためトンネル工事に携わりました。労働環境は、粉塵が舞う中1日に10時間以上も力仕事を続け、食事や休憩を取れないほど過酷だったそうです。症状が進行し、仕事が続けられなくなってからようやく労災を受けられるようになりました。

今日、医学が進歩し、労働者を守る法律も制定されましたが、多重下請けや出来高制という構造的な問題は残されたままです。それらの結果、しわ寄せは全て労働者にいきます。「現場の労働環境は変わっていない、将来も変わらないだろう」と患者さんの嘆きや諦めが印象に残りました。

生活の利便性の陰に多くの犠牲があることを改めて認識する学びとなりました。

胡 瑞鑫（九州大学3年）

④ 南富良野災害ボランティア できることは少なくとも

2016年8月、北海道に4つの台風が立て続けに上陸し、道内各地に甚大な被害を及ぼしました。深刻な浸水被害を受けた南富良野町へ医学生が訪れました。

10月9日に南富良野災害ボランティアに参加しました。きっかけは、旭川医科大学の奨学生ミーティングで、ボランティアの案内がされたことでした。当日は、河川の氾濫により、作物やビニールハウスが流されてしまった農家の畑に出向き、泥を運び出す作業などを行いました。畑にトマトやニンジンが散乱しており、農家の方の心痛はかなりのものだと感じました。雨が強く降る中、泥を運び、埋もれたビニールを掘り出す作業はとても大変でした。しかし、訪れた農家の方が「家族だけではここまでできなかった。来てくれたボランティアの方には本当に感謝している」と話された時、来て良かったと心から思いました。



↑上流から流されて積み重なった木々

ボランティアを通し、できることは少なくとも、自分のできる範囲のことを頑張っていくことが大切なのだと気付かされました。南富良野災害ボランティアセンター職員の皆様、ボランティアをさせて頂いた農家の皆様に心から感謝いたします。南富良野町など被害に遭われた地域のできる限り早い復興を心より願っています。

酒井 祐介（旭川医科大学2年）



ホワイトボードで行程確認↑

北海道民医連のご紹介

「いつでも・どこでも・だれもが安心してよい医療を」の願いを胸に1946年、働くものの立場に立つ診療所が診療を開始しました。以来、北の大地に根をおろし、つねに病める人々や地域住民の方々と手を携えて歩みつづけ、やがて診療所が病院となり、全道へと広がり、1978年に北海道民医連が結成されました。職員と地域の人々が力をあわせて、病院・診療所のほか、訪問看護ステーション、老人保健施設など、医療・介護のネットワークをひろげ、地域に密着した医療と介護・福祉活動を展開しています。

■ 実習のご案内

北海道民医連の各施設では、医学生の実習を1年生から積極的に受け付けています。札幌にある勤医協中央病院をはじめ、旭川、函館、釧路、帯広、北見にも北海道民医連の病院があります。他にもまだまだ事業所がありますので、希望にもとづき、担当スタッフと相談しながら見学先を決めることができます。私たちの医療にふれてみませんか？お気軽にご連絡下さい。

◇勤医協中央病院 医学生課 札幌市東区東苗穂5条1丁目9-1

TEL:011-780-3346

E-mail:chuou-hp@dominiren.gr.jp



◇道北勤医協一条通病院 医局課 旭川市東光1条1丁目1-17

TEL:0166-34-2111(内線2515)

E-mail:ichi-jou@dominiren.gr.jp



■ 奨学貸付金のご案内

北海道民医連では、医学生を対象とした奨学貸付金制度を設けております。北海道民医連の奨学生になって一緒に学び、充実した学生生活を送りませんか。奨学貸付金に関する内容や資料のご要望は、お気軽に下記までお問い合わせください。

120,000円（月額）

【奨学貸付金に関するお問い合わせ】

北海道民医連 札幌市北区北14条西3丁目1-12 TEL:011-758-5344 E-mail:igakusei@dominiren.gr.jp

